

「助ける」の意味分析

藤 森 秀 美

要 旨

本稿は「助ける」の意味分析である。

本稿では、「助ける」を多義語¹⁾であるにとらえ、七つの意味に分けて分析し、多義構造を示した。「助ける」は起点となる意味から、六つの意味が派生しており、それを動機づけるのはメタファー、メトニミーであるという仮説を示した。

キーワード：多義語，メタファー，メトニミー

0. はじめに

本稿の目的は「助ける」の意味を分析し、その多義構造を明らかにすることである。

以下、本稿の構成について述べる。1節では、先行研究をとりあげ、その問題点を指摘する。2節では、意味分析をする際に援用する概念について述べる。3節では、別義を示し、例文を挙げ、多義語である「助ける」の意味分析を行う。4節では、別義を再掲し、別義間の関係を図によって示す。5節では本稿のまとめを行う。6節では今後の課題を述べる。

1. 先行研究

小泉保他編（1989）では、次の二つの意味が挙げられている。

①危険・災難・死からのがれさせる②物事がうまくいくように力を貸す

別義が二つ挙げられているのみである。①と②では意味に大きな隔りがあり、二義間の関連性が理解しにくく、意味の記述としては不十分である。

2. 援用する概念について

本稿では、「助ける」を多義語として分析するが、分析する際に、レトリックの概念であるメタファーとメトニミーを用いる。

メタファー、メトニミーについては、粉山（2001）の以下の定義に従う。

メタファー：二つの事物・概念の何らかの類似性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩。

メトニミー：二つの事物の外界における隣接性、あるいは二つの事物・概念の思考内、概念上の関連性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩。

3. 分析

本節では、「助ける」を七つの別義に分け、考察する。まず、分析結果であるそれぞれの別義を示したうえで、例文を挙げ、説明していく。

別義1：〈ある人が窮地に立たされているときに、別の人が望ましい結果になるようにある人に何らかの働きかけをする〉²⁾

- (1) 桃水は、けっして弱い者を助けてやろう、救ってやろう、という気持ちで活動していたわけではありません。
(書籍/1 哲学・「独楽」という生き方)³⁾
- (2) (略)「あの子には、何度も助けてもらったわ。だから、今度はわたしが、あの子を助けてあげたいの……」
(書籍/9 文学・世界の果ての城 人知らずの森のルーナ4)

例文(1)では、「助ける」「救う」は、ほぼ同等の意味に用いられている。また(2)では「助ける」を「救う」に置き換えても文の意味は変わらない。よって別義1と「救う」は同義であると考えられる。

また、窮地は、次の2例のようにかなり逼迫した窮状から、さらにその次の例のように困っている程度のものまでである。

- (3) 馬の背には女が乗っていて、暴れる馬から振り落とされまいと鞍に必死にしがみつき「助けてー助けてー」と叫んでいるのが見えた。桃介は棒切れと石ころを拾うと駆け足で土手を登り、石ころを投げながら野犬の群れに突進していった。
(書籍/2 歴史・鬼才福沢桃介の生涯)
- (4) あきらかにイジメられてるのに担任は「早く中に入りなさい」としか言わなかった。誰も助けてくれなかった。
(Yahoo! ブログ/Yahoo! サービス/Yahoo! ブログ・Yahoo! ブログ)
- (5) 私も日本にいるとき、四国と大阪をつなぐフェリー乗り場で、迷っているカナダ人女性を助けたことがあった。

「助ける」の意味分析

(書籍/2 歴史・アジアの真心)

(3)は「馬から振り落とされる」、(4)は「イジメ」というかなり深刻な状況である。一方、(5)のように「フェリー乗り場で迷っている」といったさほど深刻さを感じられない例もあり、困窮度には幅が認められる。

本稿では別義1を基本義とし、これを起点に意味が拡張していると考える。

別義2：〈ある人/動物が死に直面しているときに、別の人が望ましい結果になるようにある人/動物に働きかけをする〉

(6) オランダのホスピスで安楽死を行う医師は、他の治療行為には、あまり携わらないと聞いたことがあります。一方で人を「殺し」、他方で「助ける」のは矛盾だからなのでしょう。
(書籍/1 哲学・死の壁)

(7) 人は、優しい生き物ですか？ 人は、殺しをしたり、助けたりと色々な行動をとります。この知恵袋でも、同じでしょう。優しい人もいれば、冷酷な人もいます。何が、なんだか良く分かりません。教えてください。
(Yahoo! 知恵袋/Yahoo! JAPAN/Yahoo! 知恵袋・Yahoo! 知恵袋)

上の2例では、「助ける」と「殺す」が対比的に用いられている。別義2の対義語は「殺す」であると考えられる。

(8) イノシシは、パイナップルなどの農作物を食い荒らすことがしばしばで、辰三の畑もずいぶん食い荒らされました。農業をいとむ者なら、イノシシを助けることはまずありえません。でも、辰三は助けることにしたのです。辰三が助けたところ、いつかだれかにつかまって売られてしまうのかもしれませんが。けれども、傷つき苦しんでいる姿を見ると、助きたいという気持ちをどうすることもできなくなりました。
(書籍/分類なし・星をまく人)

(9) メロスが妹の婚礼を終わらせて無事帰途につく。途中、豪雨で増水した濁流を泳ぎ、王のさし向けた山賊を退けて、艱難辛苦の末、息も絶え絶えに、今まさに十字架にかけられようとする親友の足にかじりつく。王は感動し二人の命を助けた。
(書籍/9 文学・三浦綾子全集)

(10) 『どなたか居ませんか？ 可愛い我が子じゃないですか？ 命を救いたくないんですか？』誰も何も言わなかった。前に踏み出る者もない。『あれあれ、どうしたんです。自分が身代わりになると、それだけ申し出れば、子供の命は助けよう、私はそう言ってるんですよ』場面に変化はなかった。
(書籍/9 文学・そして肅清の扉を)

死に直面しているのは、(8)ではイノシシ、(9)ではメロスと友人、(10)では我が子である。それを(8)では辰三、(9)では王、(10)では親が死なせないように働きかけるのである。

別義1では窮地だが、別義2ではその窮地が「死」になっている。命あるものにとって、究極の窮地は「死」であると考えられる。

死は窮地の一部である。別義1は窮地全体、別義2は窮地の一部である死というように、部分と全体の関係になっていることから、別義2は別義1からメトニミーによって拡張したものと考えられる。

別義3：〈ある人が経済的に困窮しているときに、別の人が望ましい結果になるようにある人に働きかけをする〉

(11) 一生懸命働いてくれているのですが、主人のお金だけでは生活できず毎月カードで借金・返済の繰り返しの為、貯金はとてもできる状態ではありません。本来私がパートをして助けなければいけないのですが、病院でも鬱病と診断されていてとても外で働ける状態ではありません。体自体は健康体なので、そんな自分にも腹がたちます。

(Yahoo!知恵袋/ビジネス, 経済とお金/家計, 貯金・Yahoo!知恵袋)

(12) 将来サッカー選手になって、お金をたくさん稼いで恵まれない子供たちを助けたと思います。

(書籍/3 社会科学・発芽する未来)

(13) 上海の苦力たちは、寧波あたりから出てきた出稼ぎの細民で、なかには、倒産しかけた一家を助けるため、資金稼ぎに出てきている商人くずれなどもある。

(書籍/9 文学・上海読本)

(14) 祖父、勇次郎は父、繁一の父親。妻を早く亡くし、息子、繁一の戦死の後には、嵯峨未生流の華道師範として弟子をとって教え、母、まさゑ、大作、一歳年下の妹、佳世、三人の生活を助けたという。

(書籍/0 総記・群青の譜)

(15) 革命後の混乱期で音楽院の教授の月給ではやっていけず、母は洋服を縫って家計を助けた。デザイナーとしての母は評判がよく、父より収入があった。

(書籍/7 芸術・美術・リヒテルと私)

別義3では窮地が「経済的困窮」になっている。日々経済活動を営む人間にとって「経済的困窮」も窮地の一つであると考えられる。

「経済的困窮」は窮地の一部である。別義1は窮地全体、別義3は窮地の一部である「経済的困窮」で、全体と部分の関係になっていることから、別義3は別義1からメトニミーによって拡張したものと考えられる。

また、窮地が、別義2では「死」、別義3では「経済的困窮」となっており、どちらも窮地の一

部であるため別義2と3はメタファーの関係だと言える。

別義4：〈ある人が主体的に何かをするときに、別の人が望ましい結果になるようにある人に働きかけをする〉

(16) 寅蔵の手伝いをはじめた磯助は、意外にも船大工の仕事が気に入ったようだった。恭太と二人で楽しそうに父を助けている。

(書籍/9 文学・桃色浄土)

(17) 私は初めて0歳児クラスを担当しました。すべての子がかわいらしくて、つい手を出して助けたくなります。それではいけないと、自らを戒めている毎日です。

(書籍/3 社会科学・お母さんの「発見」)

(18) 手が動く人は手の不自由な人に食べさせ、足の動く人は足の不自由な人を助けて歩いていた。初めはたったこれだけの人数でどうやって百人もの人の世話をしているんだろうと思ったが、シスター達が収容されている人の面倒を見ているわけではなく、ただ彼等は共に生活しているだけのようだった。

(書籍/2 歴・インド)

(19) 本名稲田祐次郎。明治四十年、十四歳で文団治時代の七代目桂文治門下となり、小米。のち米丸を継いで、大正六年東京演芸会社の招きで上京、そのまま東京に居残る。同七年桂小文治を襲名。昭和五年芸術協会が発足すると、その中心人物として、会長柳橋を助けて活躍した。

(書籍/7 芸術・美術・聞き書き・寄席末広亭)

別義4では、主体は窮地に立たされているわけではない。主体的に何かをしようとしているのである。(16)では父である寅蔵、(17)では赤ちゃん、(18)では足の不自由な人、(19)では会長柳橋が、それぞれ主体的に何かをしようとしているのである。周囲の人がその主体に望ましい結果を出してほしいと思い、(16)では子である磯助が、(17)では保育士が、(18)では足の動く人が、(19)では弟子である小文治が、それぞれ能力の一部を提供し、主体的に働きかけている。

別義4は別義1から別義3までと違い、主体は窮状にあるわけではない。周囲の人が、主体の様子を見て、自らの能力の一部を進んで提供するのである。

別義4でも別義1, 2, 3と同様「別の人が望ましい結果になるようにある人に働きかけをする」という意味成分は共有している。

別義4は別義1からメタファーによって派生した意味であると考えられる。

別義5：〈ある人/組織が主体的に何かをするときに、ある人/組織の目的が達成できるように働きかけをする〉

- (20) 特に、国際連合平和維持活動（PKO）は、世界各地の紛争の平和的解決を助けるため、中立・非強制的の立場で国連の権威と説得により任務を遂行するものであって、一九四八年以来世界の多くの国の参加を得て、国際の平和と安全の維持のため多大の貢献をしているものであります。

（国会会議録/衆議院/本会議・国会会議録）

- (21) 昔は今とちがって病院で産むことはまれで、みんな自分の家でお産をした。それを助けて世話をしてくれる人をお産婆さんという。

（書籍/分類なし・しろばんば）

- (22) 人間は、その人がかわるのを助けることはできても、かえることはできないのです。当の人間がその気にならないかぎり、外から強制的にかえることはできません。

（書籍/3 社会科学・教育とは何か）

別義5では、助ける対象が人や動物や組織ではなく、行為になっている。用例を見ると（20）は世界各地の紛争の平和的解決、（21）はお産、（22）は人がかわることである。また、その主体は（20）は国際連合平和維持活動（PKO）、（21）はお産婆さん、（22）は人間である。

別義5は別義4からメタファーによって拡張した意味である。

別義6：〈ある人/組織が主体的に何かをするときに、ある行為が望ましい結果を導く働きをする〉

- (23) 世界唯一のタンチョウを放し飼いにしている公園で、南北約一八〇メートル・東西二七〇メートル余り・面積五万平方メートルの湿地を野犬やキタキツネから守るための金網で囲い、中の小川にドジョウを放流したり、ソバやトウモロコシの畑を設け、セリを移植するなど野生のツルの営巣・産卵を助けている。

（書籍/2 歴史・郷土資料事典）

- (24) そこで、アメリカ国内の高い人件費を避ける意味もあって、ヨーロッパなどへの海外ロケ、イギリスやイタリアの撮影所を借りての撮影、さらには編集までを海外で済ますことなどが盛んに行なわれた。この方式は、アメリカの映画会社の資金繰りを助けただけでなく、各国の映画産業を潤すことにもなった。

（書籍/7 芸術・美術・映画この百年）

別義6でも、助ける対象が人や動物や組織ではなく、行為になっている。（23）は野生のツルの営巣・産卵、（24）はアメリカの映画会社の資金繰りである。しかし、別義6と別義5が異なるのはその主体が、（23）は湿地を野犬やキタキツネから守るため金網で囲い、中の小川にドジョウを放流したり、ソバやトウモロコシの畑を設け、セリを移植すること、（24）はヨーロッパなどへの海外ロケ、イギリスやイタリアの撮影所を借りての撮影、編集までを海外で済ます方式となっている点である。

「助ける」の意味分析

また、次の3例は助ける主体が「こと」ではなく物になっている場合である。

(25) しかし、この校舎はカンボジアの人たちの自立を助けるためのものである。学校を立てたあとは、カンボジアの人たちが望むように運営してもらおう。このプロジェクトはもう一校学校を立てて終わりにしようということになったのである。

(書籍/3 社会科学・小泉首相が注目した「米百俵」の精神)

(26) 居合いの技、加えて刃物という“切断するための道具”が、さらに気の集中を助けるのだ。つまり、気の力がなければ、彼女のカタナは刃こぼれどころか、とっくに折れていても不思議はない。

(書籍/9 文学・異界の森の夢追い人)

(27) 文章は、目の前にないものを想像することを助けるが、実際に見ていないものを想像する能力は、人間にだけそなわったものではない。

(書籍/4 自然科学・生命の奇跡)

(25) では校舎、(26) では刃物、(27) では文章となっているが、いずれも人間が何らかの行為の結果産出したものとして、別義6に含めることにする。

別義6は別義5からメタファーによって拡張した意味である。

別義7：〈ある物質が何らかの変化をするときに、他の物質が望ましい結果を導く働きをする〉

(28) 山芋にはジアスターゼが含まれているので、消化の悪い麦ごはんの消化を助けます。

(書籍/4 自然科学・体まるごとキレイになれる食べ物、食べ方)

(29) 大豆に含まれるタンパク質が、我々のコレステロール濃度を下げるのを助けます。

(サイエンス/言葉、語学・Yahoo! 知恵袋)

(30) ビタミンCは体内のいろんな化学変化を助ける物質ですが、体内の備蓄量は少ないため、仕事を始める朝にこそとりたいもの。それには柑橘類とかキウイなどのフルーツが有効で、(略)

(書籍/4 自然科学 化学・意表を突かれる身近な疑問)

別義6は、人や組織によってなされたことが主体であったが、別義7では、物質になっており、意志を持って主体的に何かをするわけではない。何らかの働きをするのは、(28) は山芋、(29) は大豆に含まれるタンパク質、(30) はビタミンCである。また、望ましい結果は、(28) は消化の悪い麦ごはんの消化、(29) はコレステロール濃度を下げること、(30) は体内の化学変化となっている。

また、次の例のように主体が物質ではなく、ある「こと」の場合もあるが、このような例は別義6と別義7との中間に存在するものだと考えられる。

- (31) 筋肉のゆるみが体の中の循環を助けます。
(書籍/5 技術・工学・21世紀のポジティブ出産法)

別義7は別義6からメタファーによって拡張したものである。

4. 「助ける」の多義構造

本稿で明らかになった別義とその例文を以下に再掲し、図によって多義構造を示す。

4.1 「助ける」の別義

別義1：〈ある人が窮地に立たされているときに、別の人が望ましい結果になるようにある人に何らかの働きかけをする〉

- (1)' 弱い者を助ける⁴⁾。

別義2：〈ある人/動物が死に直面しているときに、別の人が望ましい結果になるようにある人/動物に働きかけをする〉

- (9)' 王は二人の命を助けた。

別義3：〈ある人が経済的に困窮しているときに、別の人が望ましい結果になるようにある人に働きかけをする〉

- (15)' 母は家計を助けた。

別義4：〈ある人が主体的に何かをするときに、別の人が望ましい結果になるようにある人に働きかけをする〉

- (19)' 桂小文治が会長柳橋を助けて活躍した。

別義5：〈ある人/組織が主体的に何かをするときに、ある人/組織の目的が達成できるように働きかけをする〉

- (20)' PKOは世界各地の紛争の平和的解決を助ける。

別義6：〈ある人/組織が主体的に何かをするときに、ある行為が望ましい結果を導く働きをする〉

- (24)' 撮影から編集までを海外で済ます方式は、アメリカの映画会社の資金繰りを助けた。

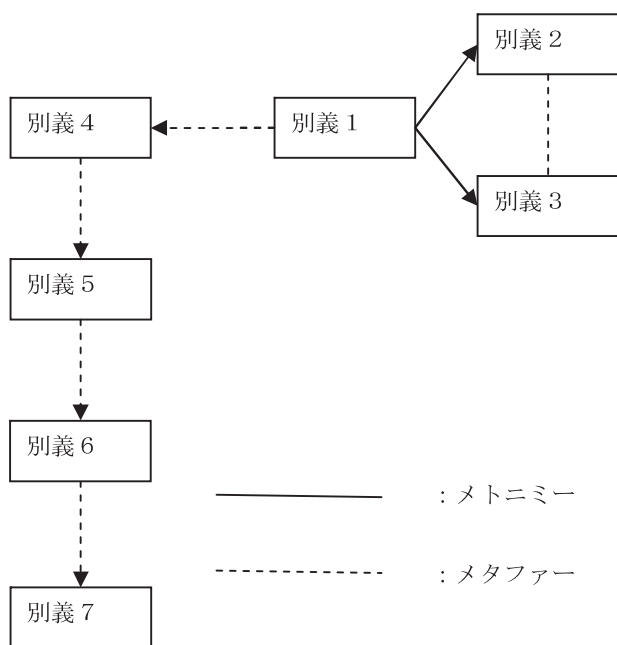
別義7：〈ある物質が何らかの変化をするときに、他の物質が望ましい結果を導く働きをする〉

- (30)' ビタミンCは体内の化学変化を助ける。

4.2 「助ける」の多義構造図

「助ける」の多義構造の図を以下に示す。

「助ける」の意味分析



5. おわりに

本稿では「助ける」の意味分析を試みた。分析結果に基づき、「助ける」は基点となる別義1から六つの意味が派生していることが明らかになった。意味の派生を動機づけているのは、メタファー、メトニミーという比喩である。

6. 今後の課題

「助ける」の類義語として、「救う」「手伝う」「守る」などがあるが、それらの語を個々に分析したうえで、「助ける」との比較を行う必要がある。

注

- 1) 多義語について国広 (1982) は次のように定義しており、本稿でもこれに従う。「多義語」(polysemic word) とは、同一の音形に、意味的に何らかの関連を持つふたつ以上の意味が結びついている語を言う。(P. 97)
- 2) 本稿では、意味をくゝで括って示す。
- 3) 実例についてはweb上に公開されているKOTONOHA「現代日本語書き言葉均衡コーパス」少納言を用い、収集した。分析対象語には下線を引いた。
- 4) 例文は意味の理解に障害が出ない程度に省略した。

引用文献

国広哲弥（1982）『意味論の方法』大修館書店

小泉保他編（1989）『日本語基本動詞用法辞典』大修館書店

榎山洋介（2001）「多義語の複数の意味を統括するモデルと比喻」山梨・辻・西村・坪井編『認知言語学論考』No. 1.
29-58 ひつじ書房

用例出典

本稿の用例はすべて以下のコーパスで収集した。

KOTONOHA「現代日本語書き言葉均衡コーパス」少納言

用例と共に「メディア/ジャンル」「タイトル」を（ ）内に（メディア/ジャンル・タイトル）の順に示した。